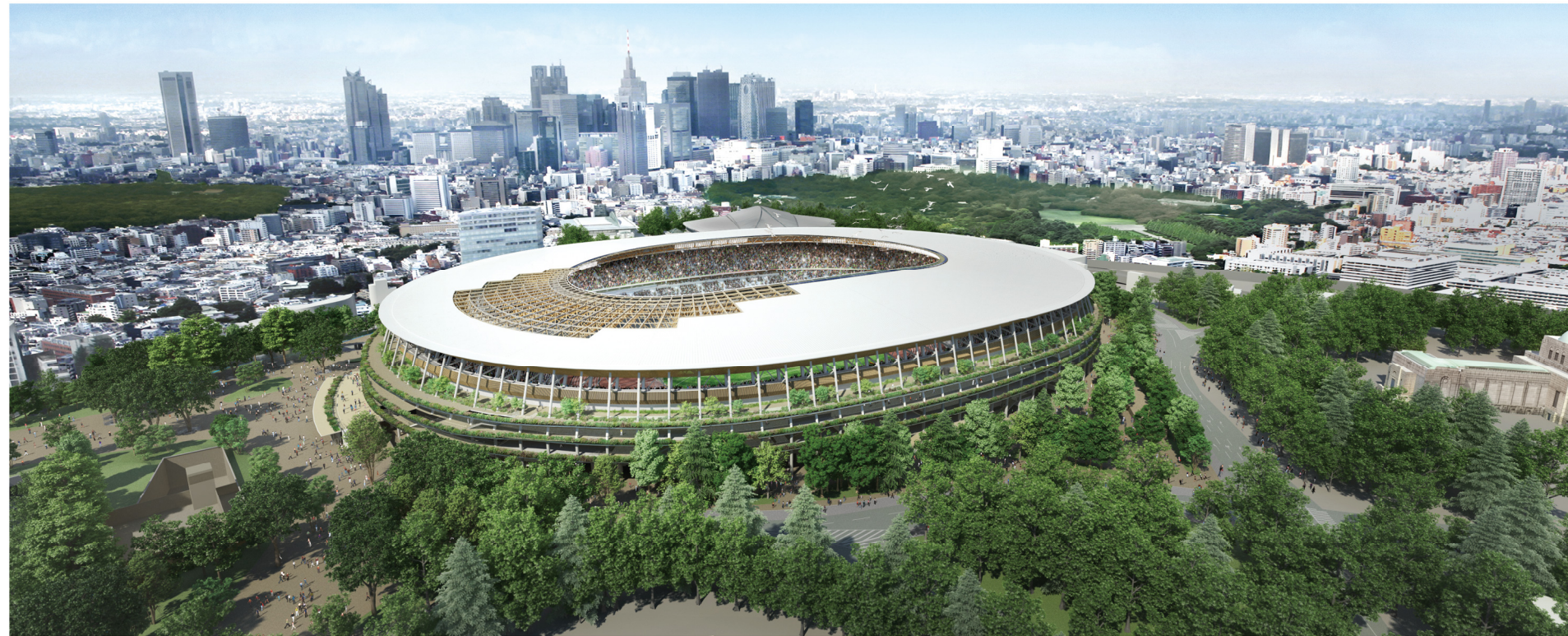


「杜のスタジアム」

外苑の緑と水とスポーツのネットワークをつなぐスタジアム

歴史ある神宮の緑をつなぎ、100年後を見据え、大地に根ざす「生命の大樹」として市民に開かれたスタジアムを創ります



南東より鳥瞰イメージ（競技大会後30年の姿）



右上；南側外観イメージ 右下；スタジアム内観イメージ

新国立競技場整備の基本的考え方 一業務要求水準書 第3章 施設整備よりー

周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の
気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム

人にやさしく、誰もが安心して集い、
競技を楽しむことのできるスタジアム

地域の防災に役立ち、地球全体の
環境保全に貢献するスタジアム

できる限りコストを抑制し、東京大会開催
に間に合うように確実に完成させる

広く市民に開かれた “木と緑のスタジアム”

提案 1 最高高さ50m以下、水平庇の連続

最高高さを50m以下に抑え、日本の気候風土
にあった深い軒庇により日射を遮ります（P23 参照）

臨場感と見やすさ、競技者の 力を引出す“皆のスタジアム”

提案 4 様々な人のアクセスに配慮

人々が安心して楽しめる世界最高水準のユニ
バーサルデザインの施設を創ります（P18 参照）

持続的な森を形成する大地に近い “環境共生型スタジアム”

提案 7 卓越風を活かした「風の大庇」

地域の風の特徴を分析し、適切な風環境をス
タジアム内につくります（P24 参照）

コスト・工期を縮減する “シンプルな同断面の構成”

提案 10 片持ち形式のシンプルな屋根

シンプルな架構の繰返しにより、工期とコス
トの縮減を実現します（P26 参照）

提案 2 市民活動をいざなう 「空の杜」「大地の杜」

5階に「空の杜」を設け、1階の「大地の杜」と
つなぎ、市民に開かれた施設を創ります（P23 参照）

提案 5 競技者と観客の一体感と 臨場感の創出

360°連続したすり鉢状の3層スタンド構成により
安全と見やすさ、臨場感を共存させます（P29 参照）

提案 8 外苑の杜につながる大樹と 雨水を利用したせせらぎの創出

外苑とつながる緑や渋谷川の記憶の継承など
緑と水の環境を創ります（P23 参照）

提案 11 高性能制振構造の採用

耐震性能、工期、コストなどを総合的に勘案し、
耐震性に優れた制振構造を採用します（P27 参照）

提案 3 木と鉄のハイブリッド屋根構造

木の集成材と鉄骨トラスを組み合わせた屋根のシンプル
な架構の繰返しにより、伝統的な「和」を表現（P26 参照）

提案 6 アスリートファーストの環境整備

充実した選手エリアと専用動線により最高のパフォー
マンスが発揮できる環境を創ります（P29 参照）

提案 9 8万人の円滑で安全な避難

観客席を1層スタンドに多く配置した大地に近いスタ
ジアムにより円滑な避難を可能にします。（P31 参照）

提案 12 徹底したユニット化、 工場製作の促進

可能な限りユニット化、工場製作を図り、また高所
作業を徹底的に減らします（P28 参照）